

◆県外研修（三重県観光連盟・津市観光ボランティアネット共同企画）

9月9日（火）8時30分発 彦根市へ（彦根商工会議所で交流会と昼食）津市の各ボランティアガイド団体より数名ずつ計100名参加（バス2台）。土清の会からの参加者は4名。（佐野・西井・別所富・山本）

城下町彦根の町が、いかに防御に適した町づくりになっているか、観光発展のために全市を挙げて町の整備に努力しており、昔の建物の外観を保ちつつ、人々が生活していることが分かった。城下キャッスル通りにカタカナ語の看板を出さない（例）（トイレを厠とし、銀行を万両替所とする。）彦根城を中心にして、武家地・足軽屋敷・町人商人地・寺町通りなどと分けられているなど。ガイドについて城下町を実感した後、昼食。午後は、彦根城博物館及び彦根城を見学（ゆるキャラ「ひこにゃん」の歓迎をうけたりした。玄宮園等を見学後バスで帰津。（山本記）

◆会員研修会「土清のゆかりを訪ねて」 企画 中津多喜郎会員

12月9日（火）石水博物館見学と香良洲神社等の見学会 会費2,500円（昼食代含む）

1. 石水博物館へ 10時集合（乗用車をのりあわせて）（参加13人）

午前中「三重ゆかりの文化財」名品展。土清編の『和訓栞稿本』『惠露草』（未刊の歌集）などを見学

2. 昼食（予約制）イタリア料理店「フェリーチェ」にて

3. 午後は香良洲神社及び神主宅訪問（ここからの参加2名）

三重航空隊の記念館（若桜会館）など見学。現地解散16時、それぞれ乗り合わせて帰宅。

～「谷川土清の祠」について～

（馬場 幸子記）

ガイドをして下さった岡野様のお話と、『谷川土清をめぐる人々』の記事から「土清の祠」のいわれが理解できました。ただ、新しい祠の中に安置されていた木札\*の文字があまり読み取れないのが残念でした。

香良洲神社神主の大河内家の先祖は北畠榮昌といい、現在の松阪市のある大河内（おかわち）城にいたが、織田信長の軍勢におされて落ち延び、一志郡長常村に落ち着き大河内の姓を名乗る。五代目の大河内重平越後守は神明社及び塩釜神社の社家をつとめ、明和6（1769）年土清の弟子となり土清没後、神明社境内に「土清の祠」を奉祀した。その後、香良洲神社の今井家十代目が伊勢神宮内宮の小宮司に任ぜられ、大河内家九代目重豊（「土清をめぐる人々」にあり）が明治5年10月、香良洲神社社司に転じたので、同社内に「土清の祠」も移建された。岡野様のお話では十一代目大河内重格（しげのり）宮司の時に移されたとある。土清翁の魂を祀り、常に参拝されていたということです。大河内重平（しげひら）の誓文が津市教育委員会蔵と記されています。

どちらにしても遷宮に併せて建て替えられているのを見て、胸が熱くなりました。

\*（編者注）中津氏ご提供の写真をよく見ると、その大半は神社の神主の大河内家の位牌や願文であった。その中に唯一土清翁に関係のある木札は、木祖社と真ん中に書かれた先の尖った札で下には3行の文字が見られ、右端に震振霊社とある文字が読み取れた。土清は京都遊学からかえった後、洞津谷川塾を開くとともに古世明神の傍らに「森蔭社」（または「振振霊社」）の霊社号を掲げた垂加神道の道場を設け、神道の教授を行った（小伝 p10）とある。その門人の一人が大河内重平なのだろう。



現在は神社の社家の中庭に安置されている

◆平成26年津ふるさと学検定PTの活動について

山本浩子会員

\*毎月第4月曜日に県津庁舎で定例会議。26年度の目標として、小学校高学年を読者対象としての郷土の副読本作成。『知っておきたい津』（仮題）各ガイド会より原稿を集める（馬場代表に依頼）。上梓の日程は未定。

\*10月26日（日）実施の「ふるさと学検定」のための現地研修説明会を、6月1日（日）に行なった。

おもてなし三重観光ボランティアガイド連絡協議会交流会

参加報告と感想 池村幸久会員

日時：平成26年12月5日 10時～15時30分 場所：伊賀市「ハートピア伊賀」及び市内。

岡本栄伊賀市長や伊賀観光協会会長廣澤氏の来賓挨拶の後、協議会の今後の方向性が話し合わせ、午後は好天に恵まれてガイドと共に伊賀上野城周辺の市内見学をして有意義だった。フォークシンガー高岡たかしの“私が愛した上野市”どおりの歴史の重みと現代にも生活する人々の故郷への情愛を感じる風景が見られた。谷川土清旧宅は津城と伊賀上野城とを結ぶ伊賀街道に面してあるからですが、伊賀上野城は日本一の高さの石垣の上に川崎克元代議士が私財をなげうって建立した五層の天守閣が立ちそこからの見晴らしが最高でした。また、伊賀と言えば松尾芭蕉、その生家や蓑虫庵を引き続きご案内いただき、最後にこれも川崎氏が建てた俳聖殿も見学できました。